

第6回

## リ サ イ ク ル

掘出し物  
いっぱい

## バザー

4月14日(土) 午前10時

烏山区民センター前広場

(雨天の場合は3階会議室とセンター前広場  
テント内で行います)11年間活動を続けてきた  
住民協議会にご協力  
をお願いします。

オウム真理教対策住民協議会が行う、リサイクルバザーも6回目を迎えます。オウム真理教の「解散・解体」を目標に続けてきた活動も12年目となり、未だに不穏な活動を続けるオウム信者に目を離す事が出来ません。

私たちは年2回の抗議デモと学習会、毎月の協議会ニュースの発行、毎日のオウム施設の監視活動などを、皆様からの募金で行っています。

このような活動を続けるための資金として、リサイクルバザーの売上げも活動資金として住民協議会を支えています。

今年もバザーの売上げで、住民協議会の活動が続けられますよう、ご協力をよろしくお願い致します。東日本大震災復興支援の募金も行ないます。

オウム対策住民協議会

烏山地域オウム  
真理教(現アレフ)  
対策住民協議会

## 第24回 抗議デモ・学習会

5月12日(土)

- 抗議デモ 午後1:30集合 1:50出発  
烏山区民センター前広場
- 学習会 午後2:30開会  
烏山区民センターホール

講演 オウム事件の宗教的動機を見据える  
—カルト宗教の本当の怖さを知るために—

オウム真理教事件の裁判が基本的に終結した。しかし、判決や報道からは事件群の根底にある宗教的動機を知ることは難しい。そこで最も肝心の宗教的動機をわかりやすく明らかにしながら、オウム真理教などのカルト宗教の怖さを考えてみたい。

講師：フォト・ジャーナリスト 藤田庄市氏



## 略歴

1947年(昭和22年)東京生まれ。大正大学(宗教学)卒。フォト・ジャーナリスト。日本写真家協会会員。カルト問題、政治と宗教、山岳信仰などの伝統宗教に至る宗教取材に従事。『宗教事件の内側』(岩波書店)、『オウム真理教事件』(朝日新聞社)、『熊野、修験の道を往く』(淡交社)『行とは何か』(新潮社)、『霊能の秘儀』(扶桑社)など著書多数。共著では『情報化時代とオウム真理教』(春秋社)

主催：烏山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会

共催：世田谷区

次回の予定は5月8日(火)です。



## 「新樹苑餅つき大会」で募金活動～投稿

3月11日住民協議会のメンバー5名は、「新樹苑餅つき大会」で募金活動に取り組みました。当日は花冷えの肌寒い日にも関わらず、老若男女、子ども達も含め多くの参加があり、たくさんのお餅が配られていました。募金を訴えると、募金箱にお金を入れながら、「活動頑張ってくださいね。ずっと応援しますよ。」と声をかけて頂き、会員一同感激いたしました。また、つきたてのアツアツのお餅を頂きながら、身も心もほのぼ

のと暖かい気持ちになり、皆さまの笑顔に私たちも頑張って活動を続けてきてよかったと感じました。毎年気持ちよく参加させて頂き、なお募金にも協力していただきありがとうございます。終了間際に少し雨が降りましたが、まずまずの天候でした。今後も多くの皆さまのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



## 教団施設の現況について

平成12年12月末に、オウム真理教信者13人が、北烏山6丁目の「GSハイム烏山」、「サンサンマンション」の二つのマンションに集団で転入し、今年で12回目の春を迎えました。その後、平成15年末頃には、これらのマンションに居住する信者数は、最大規模の130人程度に達しました。

地域住民は、数々の凶悪事件を引き起こした教団の存在に、言い知れない恐怖と不安を抱きながら、日々の生活を送らざるを得ない状況が続いています。

その後、平成19年に、教団は「アレフ」と「ひかりの輪」に分裂し、道路を挟んでサンサンマンションに「アレフ」が、またGSハイム烏山に「ひかりの輪」が、それぞれ本部を置いていましたが、平成23年3月末には、「アレフ」は、足立区内に取得した教団施設に移り、烏山地域から撤

退しました。

アレフが本部としていたサンサンマンションは、現在は取り壊され、建売住宅9棟の建設が進められています。建物完成後は、周辺の様子も大きく変わり、これらの住宅から子どもたちの声が聞こえるなど、一見平穏な地域と見受けられる状況が出現するでしょう。

しかしながら、「ひかりの輪」は、依然GSハイム烏山に本部を置き、未だ信者十数名が集団で居住し、修行活動やセミナーを活発に行っています。セミナー開催時には多人数の信者の出入りが確認されるなど、依然として不穏な状況は変わりなく続いています。

烏山地域の住民は、長年にわたる監視活動や抗議行動等で疲弊しています。一日も早くオウム真理教(アレフ・ひかりの輪)を解散・解体に追い込むためにも、これまで以上に力強い取組みが必要です。多くの皆様の幅広いご支援をお願いいたします。

## カルト対策に区内大学、新入生にパンフ配布

毎年、住民協議会では、区内大学の新生をカルトの勧誘から守るため、日本脱カルト研究会発行のパンフレット「こんな勧誘にご用心」を配布しています。今年は以下の大学で協力して頂き

ました。東京医療保健大学、国士館大学、駒澤大学、昭和女子大学、成城大学、多摩美術大学、日本女子体育大学、日本大学商学部、東京都市大学(順不同)

## 監視小屋だより

オウム真理教への監視活動は地域住民の皆さんの協力を得て、ほぼ毎日監視小屋に立ち、信者達の動向を日誌に記録しています。現在は、39の団体(町会・自治会、小・中学校PTA、青少年地区委員会、商店会)の皆さんが、年間のローテーションを組み活動を続けています。

<日誌より抜粋>

- ・男性信者が2階より1階へ降りて行った。一般の人と見た目は変わらない感じだ。
- ・高齢の腰が曲がった女性信者が1階よりゴミ?を拾いながら2階の他の信者が集まっている部屋に入り、杖をついた男性信者も2階の部屋に入った。
- ・男性信者が冷蔵庫、炊飯器、ガス湯沸器、ダンボール箱等を車に積み込んで駅方面に出て行った。
- ・ひかりの輪幹部は出張の為、人の動きは少ないようです。23.10.23
- ・説法会があり30人位が参加。初めて参加した信者も10人位来ていた。23.10.30
- ・信者の布教活動の為、上祐は九州方面へ旅行中。23.11.14
- ・マスコミ関係者が4人程来ていた。作業衣を着ている信者と

話をしたり撮影をしていた。

- ・近所の人が夜中にお経のような声が聞こえることがあり、うるさいと話をしていた。23.11.20
- ・初老の信者(男性)と日常の生活ぶりを話す。80歳代の女性信者1名、70歳代の男性もいる。信者は17名位いるらしい。1987年に入信したとのこと。
- ・週末に幹部の人達は説法で地方に行っている。烏山施設には少しの信者しか残っていないので動きもない。24.1.9
- ・集会でも開いているのか2階の部屋から1階の道場への出入りが多い。24.1.19
- ・道路に工事の車が出入りして危険です。小屋からの監視になりました。

GSハイムに居住しているオウム真理教(ひかりの輪)の信者は、10名余りになり、日常の動きも少なく監視小屋日誌にも「動きなし」の記入が目立ちます。しかし今年1月に公安審査委員会は「危険な団体」と判断し、オウム真理教(アレフ・ひかりの輪)への観察処分の更新を決定しました。私達住民協議会は今後も活動の手をゆるめる事なく地域住民の皆さんと共に闘っていく所存です。

## 住民協議会活動報告

3月16日(金) 第6回リサイクルバザー物品受け  
3月18日(日) 新樹苑で募金活動  
3月19日(月) 実行委員会  
3月26日(月) 協議会ニュース114号初校正  
3月27日(火) 第6回リサイクルバザー物品受け

3月30日(金) 第6回リサイクルバザー物品受け  
4月1日(日) 芦花公園花の丘フェスタで募金活動  
4月2日(月) 協議会ニュース114号再校正  
4月5日(木) 第6回リサイクルバザー物品受け  
4月6日(金) 事務局会議  
4月10日(火) 協議会ニュース114号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。